



学校だより

学校教育目標

さわやかな心

しんけんな目

まなぶ力

令和4年度7月号
令和4年6月30日発行
川口市立差間小学校



Birthday

廊下を走らない

校長

「廊下を走らない」、小学校の長年の課題です。

子供は、廊下を走ります。指導しても走ります。低学年とは限りません。

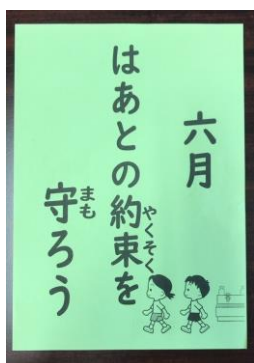
指導して直るなら、これほど長く課題になっていません。でも諦めません。

「走らないようにね」と声をかけると「はあい」と返事しながら走っていきます。

友達に、「走っちゃダメだよ」と言いながら、走って追いかける子もいます。

廊下の角を曲がるとき、後ろを振り返る子は、大抵曲がってから走ります。後ろ足が蹴り上がっているのが一瞬見えます。

一番見つかりやすい職員室前の廊下も走りますから裏表はありません。差間っ子は素直です。



「授業や活動に遅れないようにしなくちゃ」という気持ちが強いのでしょうか。休み時間は長くないので、子供たちに余裕がないのかもしれません。長い廊下を見ると、衝動的に走りたくなるのかもしれません。

本校では、「は・あ・と」の約束（はしらない・あそばない・とびださない）を生活目標にしたり、「静かに」「右側を」「歩こう」と繰り返し指導したりして、落ち着いた廊下歩行の啓発に取り組んでいます。廊下歩行について取り組んでいない学校はおそらくないと思います。保護者の方々も、子供のころ「廊下を走らない」と指導された記憶があるのではないのでしょうか。

なぜ廊下を走ってはいけないのでしょうか。学校ではよく「けがをするから」と説明しますが、私は、それだけでは子供に説得力がないと思います。子供の気持ちは、「大丈夫」「めったに転ばない」「急ぎたい」というところだと思いますが、敢えて厳しく表現するなら、もし自分が転んでけがをしたら、そこから学ぶこともあると思います。廊下を走ってはいけない理由は、私は「けがをするから」に加えて「けがをさせるから」だと思います。学校事故の報告書には、「走ってきた友達にぶつかって大けがをした」「妊娠中の教員や保護者にぶつかった」などの事例が載っています。

学校生活のことなので、保護者の皆様には学校に任せていただいています。学校での廊下歩行については「関心はあるけれど、学校での様子はわからない」といったところでしょう。しかし、我が子が走った友達にけがをさせられた、我が子が走って誰かを傷つけたとなると穏やかではないと思います。



廊下歩行は、「落ち着き」「思考力」「判断力」と相関関係があります。廊下を走る子は、道路に飛び出してしまうのではないかと心配です。根気よく指導してまいります。

5月の全校朝会で、子供たちに「学校生活を送るために大切な3つのこと」について話しました。「差間小 児童の校則」の3つの柱、「人（心身）を傷つけない」「自分を守る行動をする（交通安全・不審者対策・防災）」「ルールを守り学習に集中する（持ち物・身なり・時間など）」について話しました。差間っ子は、「指導されたこと」と「自分の行動」が結びつかないところがあります。自分にも当てはまる問題として捉えることが苦手です。

相変わらず走っていますので、今日も指導します。「ダメなことはダメ」なのです。